

## 1 研究主題

### どの子ども楽しく「わかる」「できる」授業をめざして（2年次） ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを通して～

## 2 主題設定の理由

子どもたちがこれから生きていく社会は、新しい知識・情報・技術が社会活動の基盤として重要視される、いわゆる「知識基盤社会」の時代だと言われている。これからの学校教育では、単なる知識や手法の習得だけではなく、学ぶ意欲や主体性を育み、激しい変化に対応できる力を養うことが求められている。文部科学省は、2017年の学習指導要領改訂において、学力の重要な3つの要素として、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を示すとともに、知識・理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善が重要であるとしている。授業改善を行うには、障害のある児童もない児童も、すべての児童が学習活動に参加し、授業内容を理解する充実感、達成感もてる授業づくりを考えていく必要がある。

本校は、発達障害の診断を受けた児童やその旨の相談を受け、発達障害の傾向にある児童が、全体の20%程度在籍している。また、個別に支援を要する児童も通常学級に複数在籍しており、学級内における学力差は大きい。しかし、それらの児童すべてが支援学級や通級指導教室等で、特別な支援を受けられているわけではない。生活支援員は、特別支援学級に在籍する児童への対応が主となり、通常学級に在籍する発達障害をもつ児童やその傾向にある児童に対しては、通常学級の担任が一人で対応しなければならない場面が多い。また、T.Tや少人数授業など、学習形態を工夫しながら授業を行っているものの充分ではない。そのため、様々な児童のニーズや特徴に応える、より適切で効果的な指導を工夫する必要がある。

そこで、昨年度より、すべての児童が楽しく「わかる」「できる」授業を目指して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの研究を進めてきた。まず、授業におけるユニバーサルデザインについての理解を深め、「焦点化」「視覚化」「共有化」の3つの視点を取り入れた授業づくりに取り組んできた。その結果、年度末の職員意識調査アンケートにおいて「ユニバーサルデザインの3つの視点を意識した授業づくりを心掛けている」と答えた職員が100%となり、ユニバーサルデザインが授業づくりの視点として浸透してきたといえる。一方で、以下の課題も明確になった。

- ① 本校の全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査の結果から、学年が上がるにつれて学力差が広がる傾向があることが分かった。このことから、知識・技能の定着が十分でない児童への支援を行いながら、知識・技能を使って、思考・判断・表現できる児童を育てる指導の手立てを考えていく必要がある。
- ② 授業づくりの視点を意識することはできているものの、すべての児童が本時の目標を達成できたかどうかの検証が十分でなかった。本時の目標を具現化し、この時間に目指す児童の姿を明確にした上で、学習指導や学習支援の在り方を考えていく授業改善が必要である。
- ③ 1人1台端末がスタンダードとなった今、ユニバーサルデザインの視点とICTとの最適な融合を図りながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実をめざしていく必要がある。

これらの課題を受けて、本年度は、昨年度の研究を継続しながら、本時の目標を具現化し、児童に力がつく学習指導や学習支援の在り方を探っていく。1人1台端末（以下クロームブック）を効果的に活用しながら、日常的に積み重ねる授業改善が、学ぶ喜びを感じる児童を育てていくことができると考え、本主題を設定した。

## 3 主題の捉え方

日本授業UD学会（2016）は、授業のユニバーサルデザインを、「学力の優劣や発達障害の有無に関わらず、すべての子どもが楽しく学び合い『わかる・できる』ように、工夫配慮された通常学級における授業デザイン」と定義している。また、「焦点化」とは「授業のねらいを絞ったり活動をシンプルにしたりすること」であり、「視覚化」とは「視覚的な手立てを効果的に活用すること」である。「共有化」は「話し合い活動を組織化すること」であり、学び合う場を設定することで、理解を共有し、考えを発展させたり深めたり助言を得たりすることをねらっている。子ども同士の相互のやりとりによって、理解がゆっくりの子には他の子の意見を聞きながら理

解をすすめるチャンス、そして、理解が早い子には他の子へ自分の意見を伝えたり説明したりすることでより深い理解に到達できるチャンスを作ることができる。これら3つの視点を取り入れた授業を積み重ねることで、学ぶ喜びを感じる児童が育つであろう。

国語授業のユニバーサルデザイン3つの視点（「国語授業のユニバーサルデザイン」桂聖 著）

「焦点化」…ねらいや活動を絞ること。教科の本質を理解していなければ、焦点化を図ることができない。

「視覚化」…視覚的な理解を重視した授業にすること。聴覚情報だけで延々と繰り返される話し合い活動よりも、視覚的な理解を重要視すべきである。

「共有化」…一人の考えのよさが他の子たちに分かち伝わるようにすること。話し合い活動を組織していく教師対応力が重要になる。

算数授業のユニバーサルデザイン3つの視点（「算数授業のユニバーサルデザイン」伊藤幹哲 著）

「焦点化」…1時間の授業の中で、子どもたちに獲得させたい数学的な見方・考え方を明確にして、本時レベルでの具体的な見方・考え方に絞り込むこと

「視覚化」…「イメージする活動」と「数学的な見方・考え方を獲得する活動」において視覚化は必要となるもの

「共有化」…一人の子どもの数学的な見方・考え方のよさを全員に広げること

① 友達の考えを解釈する活動 ② 友達の考えを自分の言葉で表現する活動

② ノートに再現する活動

#### 4 研究の目標

授業のユニバーサルデザイン3つの視点を取り入れ、すべての児童にとって、楽しく「わかる」「できる」学習指導と学習支援の在り方を探る。

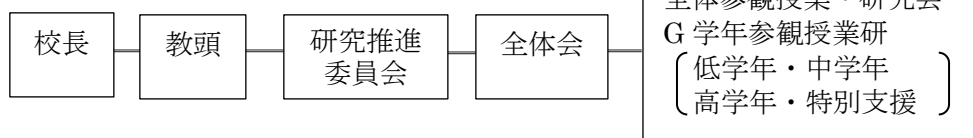
#### 5 研究の仮説

本時の目標を具現化し、本時で目指す児童の姿を明確にした上で、授業のユニバーサルデザイン3つの視点「焦点化」「視覚化」「共有化」を取り入れた学習指導や学習支援を工夫することにより、どの児童も楽しく「わかる」「できる」授業となり、学ぶ喜びを感じる児童が育つであろう。

#### 6 研究の内容と方法

- (1) 研究主題、目標、仮説、内容に至るまでの共通理解を図る。
- (2) 「ユニバーサルデザイン3つの視点による授業づくり」チェックリストと「ユニバーサルデザインの支援」チェックリストを作成し、活用することで、日常の授業改善を図る。
- (3) 授業のユニバーサルデザイン3つの視点の有効性を授業により検証する。
- (4) 授業づくりを支えるユニバーサルデザインの学習環境づくりに努める。
- (5) ユニバーサルデザインの3つの視点による授業づくりや個別の学習支援におけるクロームブックの活用を図り、ユニバーサルデザインとクロームブックを融合した活用法を探る。
- (6) 児童・職員の意識に関するアンケートにより、児童の変容をとらえ研究の効果を探る。

#### 7 研究の組織



##### ◎ 研究推進委員会

校長、教頭、教務、研究主任（松尾）、研究副主任（田中）特別支援（園田）  
低学年（野中）、中学年（小野）、高学年（田中）、級外（徳永）

##### ◎ 授業研究部

（低学年） 野中、中島、平川、古川、釘本、岩永

（中学年） 小野、下平、脇山、江口、徳永

（高学年） 松尾、高橋、久保、田中、宮地、杉本

(特別支援)

園田、諸石、山口、平井、緒方、中尾、樋口、松江

## 8 研究の具体的な取組

- (1) 研究主題、目標、仮説、内容に至るまでの共通理解を図る。
  - ア 第1回全体会、夏季休業中の校内研修等で研究内容について研修を行う。
  - イ 外部講師を招いて、研究内容について指導を受けることで、研究内容の理解を深める。
- (2) 「ユニバーサルデザイン3つの視点による授業づくり」チェックリスト（学習指導）と「ユニバーサルデザインの支援」チェックリスト（学習支援）を作成し、活用することで、日常の授業改善を図る。
  - ア 学習支援と学習指導を区別し、支援のチェックリストを作成する。（4月、8月）
  - イ 学習支援のチェックリストを日常の授業に活用することで、授業改善に努める。
  - ウ 校内研究授業において、学習指導のチェックリストを作成し、学習支援のチェックリストとともに授業のねらいを達成できたかの検証に生かす。
  - エ 校内研究授業等で検討しながら学習支援のチェックリストの項目を絞り、日々の授業に活用することができるようなチェックリストを作成する。
- (3) 授業のユニバーサルデザイン3つの視点の有効性を授業により検証する。
  - ア 1単位時間の授業において、身に付けさせたい教科の内容から、目指す児童像を具体的にする。
  - イ 目指す児童像をもとに、授業のユニバーサルデザインの3つの視点で指導の工夫を探る。
  - ウ 全体授業研究会を実施し、全員が研究授業に関わっていき、講師を招いて研究内容についての指導を受ける。
- (4) 授業づくりを支えるユニバーサルデザインの学習環境づくりに努める。
  - ア 落ち着いて学習に取り組むことができるユニバーサルデザインの教室環境づくりに努める。（前面に掲示物を張らない、UDフォント等）
  - イ 特別支援学級の環境づくりで効果的だったものを紹介し、学校全体で共有する。
- (5) ユニバーサルデザインの3つの視点による授業づくりや個別の学習支援におけるクロームブックの活用を図り、ユニバーサルデザインとクロームブックを融合した活用法を探る。
  - ア 日常の授業づくりにおいて、クロームブックを活用し、有効な学習指導方法や学習支援方法に探る。
- (6) 児童・職員の意識に関するアンケートにより、意識の変容をとらえ研究の効果を探る。
  - ア 児童のアンケートの実施（学校評価アンケート9月・1月を活用）
  - イ 教師のアンケートの実施（学校評価アンケート1月活用）

## 9 研究の計画

月日（曜日）	校内研究内容	行事・職員研修等
4月2日（月） 4月6日（水）	・推進委員会（研究計画の検討） ・全体会（研究計画の提案）	15～22日家庭訪問 19日全国学力・学習状況調査
5月11日（水） 5月下旬	・全体会、G研（研究の具体的な取組の検討） ※研究授業日程・授業者の決定	5月22日運動会
6月22日（水）	・全体研提案授業（5年1組授業者松尾） ・授業研究会	9日席書会
7月13日（水） 7月15日（金） 7月下旬 7月下旬	・全体会、G研（研究の具体的な取組の検討） ・西部教育事務所学校訪問 ・全体会（講師招聘「授業づくり」研修会） ・G研（1学期前半の反省及び研究授業指導案作成等）	8日修学旅行5年 21日～サマースクール

8月上旬	・推進委員会（1学期前半の反省及び研究の具体的取組の検討）	
8月22日（月）	・全体会（研究の具体的取組の検討）	
8月31日（水）	・G研（研究授業指導案作成・検討） ※（G研授業）	
9月7日（水）	※（G研授業）	7日個人研修（成績処理）
9月14日（水）	・全体研授業またはG研授業 ・児童の意識アンケート実施	9日ふれあい道徳参観
10月12日（水）	・全体研授業またはG研授業	6日1学期終業式 11日2学期始業式
11月2日（水）	※（G研授業）	2日職員研修（?）
11月9日（水）	・全体研授業またはG研究授業	10日～修学旅行6年
11月16日（水）	※（G研授業）	16日職員研修（?） 30日～（県学習状況調査?）
12月14日（水）	・全体研授業またはG研究授業	14日（授業参観?）
1月11日（水）	・全体会、G研（今年度の振り返り） ・児童・職員の意識アンケート実施	
1月18日（水）	・個人研（個人の校内研振り返り）	18日個人研修（成績処理）
1月25日（水）	・推進委員会（研究のまとめ・次年度構想）	25日個人研修（成績処理）
2月8日（水）	・全体会（研究のまとめ・次年度構想）	16日授業参観
3月	・研究のまとめ作成	22日（卒業式?）